

呼び名は世につれ

「週末寸言」原稿 20100501

英語の一人称代名詞といえ
ば I、そして二人称は you。
シェイクスピアでは、二人称
に「thou」なども使われ
ていたが、それは4百年も前
の話だ。つまり、英語の人称
代名詞は不動と言っても良い
ほど安定している。これに比
べると日本語の人称代名詞は
実に移ろいやすい。分けても
一人称と二人称において顕著
である。

俺、我輩、それがし、みど
も、拙者、吾人、余、やつが
れ等々、数え上げればきりの
無いこれらの一人称代名詞は、
今日全く通用しない。何故
か？横柄に聞こえるからであ
る。人気タレントや有名スポ
ーツ選手などが「俺」を使っ
ているが、聞いていてあまり
良い気分がしない。只今では、
私、僕、自分などが使って許
される数少ない言葉だろう。
つまり、一人称は時代と共に
急速にインフレを来たすため
にデノミを必要とする宿命を
負っている。

千変万化は二人称も負けて
はいない。汝、そち、そなた、

うぬ、てめえ、おまえ、あ
んた。ほとんど使用に耐えない。
現代、辛うじて生命を留めて
いるのが「あなた（貴方・貴
女）」だが、これとても目上の
者には使えない。このように、
時代と共に彩色を補填しなが
らも、二人称代名詞はデフレ
によって価値が下落しつづけ
る。つまり、日本語の人称代
名詞のうち一人称は時間と共
にインフレを来たして尊大さ
が増し、二人称は反対にデフ
レを招いてどんどん矮小とな
る。

そのデフレの格好の例が、
大病院でここ10年ほど前か
ら使われている「患者さま」
だ。近頃は「御患者さま」ま
で現れたと友人から聞いた。
病院は、医師や看護師などの
専門家と、病人という「素人」
が、実に楽しくない状況下で
邂逅する場所だ。ここでは圧
倒的に優位な立場に立ってい
るのが前者である。だから知
らず知らずに「優劣」が決ま
る。かくて、前者はインフレ
を、後者はデフレを来たす。
10年後、大病院の待合室
で患者さまたちはどんな彩色
を施した呼び名を付けられて
いることだろう。呼称で上げ
奉られるより、医療従事者の
笑顔の方がうれしいのだが。